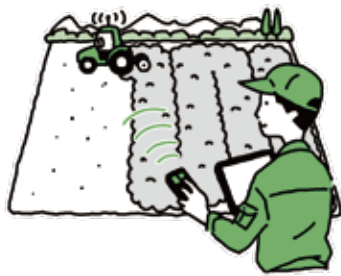


高校生版

For  
High School  
Students

おしごとガイドブック  
~2025年度版~



HOKKAIDO WORK GUIDE

# 北海道のしごと



私たちの暮らす北海道は、

たくさんの人の仕事に支えられています。

この冊子では働く先輩たちの姿を通じて  
北海道の産業や仕事の様子などを紹介します。



# 専門高校が取り組んでいる



工業高校と空調専門メーカーが連携した人材育成

## 【専門高校×企業の連携事例】

気候変動が進みエアコンの需要が高まる中、旭川工業高校では、空調設備に関する人材育成の充実に向けて、ダイキン工業（株）と連携し、教員対象のセミナーや人材育成に関する意見交換を行ってきました。このような連携によって、ダイキン工業（株）から学校に複数台のエアコンや専用工具が寄贈され、現在は、電子機械科においてエアコンの据付実習が行われています。また、帯広工業高校においても同様の産学連携が進むなど、道内の工業高校において、テクノロジーで未来を創る人づくりが進められています。

旭川工業高校 × 帯広工業高校 × ダイキン工業株式会社

## 【専門高校×小学校の連携事例】

俱知安農業高校では、地域産業について小学生に理解を深めてもらうことを目的に、平成11年度から町内の小学校とジャガイモ栽培に関する交流学習を行っています。

高校生が講師となった小学校における出前授業のほか、農場において、植え付けや収穫などについて指導しており、小学生がジャガイモについて深く学ぶことができます。こうした取組は、学習を体験した小学生が俱知安農業高校へ入学し、自分が教える立場になるなど、学びの好循環を生み出しています。

俱知安農業高校 × 町内の小学校



地域産業について小学生に

理解を深めてもらう

## 【学科の垣根を越えた連携事例】

美幌高校農業科と置戸高校福祉科では、学科の垣根を越えた連携学習に取り組んでおり、野菜栽培に関する学習を通して、「農福連携」や「園芸療法」について学んでいます。

具体的な取組としては、農業科の生徒が講師となり、福祉科の生徒に対し、野菜栽培に関する知識・技術を指導するなどして、農福連携について学びを深めています。また、福祉科の生徒は、園芸療法の意義や、その実施方法などの学習を通じて、福祉についての理解を深めています。

美幌高校 × 置戸高校

農業と福祉の関わりについて

理解を深める



# 「縦」と「横」のつながり

専門高校では、北海道の未来を担う人材の育成に向けて、企業や小・中学校との「縦」のつながりと、学科の垣根を越えた専門高校同士の「横」のつながりの両面から、創意工夫のある教育活動に取り組んでいます。北海道教育委員会では、こうした取組を通じて、生徒一人一人がもつ可能性や能力をさらに高める産業教育を推進し、次世代の産業の担い手となる人材の育成を進めていきます。



半導体の価値や魅力を発信する「苦工半導体展」の開催

## 【専門高校×企業の連携事例】

苦小牧工業高校では、半導体関連企業や周辺の自治体と連携し、小中学生や市民を対象に、半導体に関して理解を深めてもらうイベント「苦工半導体展」を毎年開催しています。

併せて、生徒が講師を務め、小中学生を対象としたプログラミング教室も同時開催しており、参加者は、音楽が鳴ってイルミネーションが点滅する「クリスマスオーナメント」の製作などを行っています。

高校生が中心となって企画したこうしたイベントを通じて、半導体の魅力に加え、工業高校の魅力を広く発信しています。

苦小牧工業高校 × 半導体関連企業・自治体等

## 【専門高校×小学校の連携事例】

下川商業高校では、町内の小学生と合同で販売実習会のロールプレイングを実施するなど、地域とともに学ぶ教育を推進しています。小学生は、高校生の販売練習にお客様役として参加した後、高校生のサポートを受けながら、会計や販売の業務を体験します。こうした取組を通じて高校生には自主性と主体性が身に付き、小学生には勤労観や職業観が醸成されるなど、地域をフィールドとした学びが展開されています。

地域とともに学ぶ教育を推進

下川商業高校 × 町内の小学校



## 【学科の垣根を越えた連携事例】

大野農業高校と函館水産高校では、道南地域において、水揚げ量が多いホッキやホタテの貝殻にミネラルなどの肥料成分が豊富に含まれていることに着目し、連携して地域資源の有効活用に係る探究活動に取り組んでいます。両校では、それぞれの学科の特色を生かし、貝殻を粉砕して肥料化することで、肥料費の削減や廃棄される貝殻の有効活用、病害虫に強い作物づくりなど、一次産業の課題解決につなげています。

こうした取組によって、化学肥料を抑えた持続可能な農業生産の実現や、廃棄物問題の解決など、SDGsについての学びを深めています。

大野農業高校 × 函館水産高校



地域資源を有効活用した探究活動に取り組む

# スマート農業

北海道のしごと



仲間との情報交換を通じた技術の向上



農作業では、自動操舵トラクターやドローンを活用しています。「美幌町農業ICT推進協議会」に加入し、仲間との情報交換を通して技術を高めるなど、今後の規模拡大も見据えて、更なるICT機器の活用について模索中です。

## 農業経営者の道

実家が農業を営んでおり、私も農業に興味があったため、美幌高校の農業科に入学しました。高校の専門科目の学びがきっかけで農業経営への理解が深まり、実家を継ぎたいという思いが強くなりました。高校を卒業後、農業大学校に進学し、8年前に就農しました。



## 農業に従事する喜び

主にトラクターに乗って、作物の管理作業を行います。生育に合わせた管理が必要なため、朝早くから夜遅くまで作業をすることもあります。品質のよい農作物をたくさん収穫した時の喜びは格別です。仕事の段取りや農機具の扱いには、高校の学びが生きています。



東海農場  
【美幌町】

東海 翔也さん

美幌高校  
生産環境科学科  
(現未来農業科)  
卒業



# スマート水産業

北海道のしごと



自然と人のよりよい関係づくりのために



超音波探知機や各種観測機器、無人撮影装置などを活用し、海だけでなく、山や発電所など、自然やエネルギーに関わる現場の調査を行うほか、予測・評価、保全対策の立案まで幅広い仕事があることが特徴です。

## 先輩から多くを学び経験を積む毎日

潜水による調査や分析などの作業を通じて、海などの環境を守る仕事をしています。まだまだ、先輩の動きを見て学ぶ毎日ですが、道内外の様々な現場に行き、多くの経験を積んでいくことができるため、経験値が上がり、とても充実した毎日を送っています。



## 高校での学びを生かす

生物に興味があり水産高校に入学して、環境を守る仕事に就きました。仕事では、天候などにより作業が大変なこともあります。船の扱い方やロープワークなど、高校時代に学んだ技術を生かすことができ、苦労があっても乗り越えることができます。



株式会社エコニクス  
【札幌市】

中山 銀牙さん

函館水産高校  
海洋技術科卒業



HOKKAIDO WORK GUIDE

# 半導体産業

北海道のしごと



## 自動搬送ロボットの活用



工場では、荷物を運ぶ自動搬送ロボットを導入しています。おかげで、体力的な負担を軽減できるほか、効率的な人員配置が可能になり、社員は、人間でなければできない業務に、多くの時間を充てることができています。

## 半導体を活用した自動車産業の魅力

自動車整備をしている父の影響もあり、自動車に携われる仕事を希望しました。自分が製造している部品は、ディーゼルエンジンの燃料を噴射する装置に使用されています。街中で自分が携わっている自動車を多く見かけると、大きなやりがいを感じます。



## よりよい製造工程の実現

製造工程において不良の可能性を感じた際には、些細なことでも、上司などに報告することが重要です。また、常によりよい製造工程になるよう考えて行動することが大切であり、自分の考えた改善の提案が実現したときには大きな達成感を得られます。



株式会社デンソー北海道  
【千歳市】

村井 晴彦さん

札幌工業高校  
電気科卒業



HOKKAIDO WORK GUIDE

# 航空業界

北海道のしごと



## お客様の喜びが原動力



国際ビジネス科の授業で学んだ、英語やビジネスマナーはもちろんのこと、在学中に取り組んだ大型客船でおもてなしを実践する授業は今の仕事をする上で、非常に役立っています。お客様に喜んでいただけると、私も嬉しくなります。

## お客様に身近に感じていただける存在

空港で、JALのチェックインカウンター業務や、出発・到着ロビーのご案内などを担当しています。当日の運航状況や搭乗人数などの確認も重要ですが、お客様に身近に感じていただけるよう、表情に気を配っています。常に笑顔を決め、お客様と積極的にコミュニケーションをとるよう心がけています。



## チームワークが重要

到着便を担当する際には、客室乗務員の方と引き継ぎを行います。短時間のやりとりですがケアが必要なお客様の情報など、大切な情報が多いので正確に把握し、次の便の出発が遅れることがないように迅速な対応を心がけています。仲間とのチームワークが重要です。



日本通運株式会社  
【釧路市】

米岡 美乙さん  
釧路商業高校  
国際ビジネス科  
卒業



# データセンター

北海道のしごと

世界中のどこにいても  
仕事ができる



プログラミングにAIを活用するなど、業務の効率化を進めています。また、オフィス勤務と、自宅などで行うリモートワークを組み合わせたハイブリッドワークを導入しています。パソコンとWi-Fiがあれば、場所を問わず仕事ができます。

## ITで人々の生活を支える

企業の方が安心して働けるよう、サーバーやネットワークを整えるインフラエンジニアとして働いています。お客様の「こうした」という声を聞き、安全で使いやすいネットワーク環境をつくるのが役割です。災害時にも頼れる仕組みづくりなど、人々の生活を支えているやりがいのある仕事です。



## 憧れが自分の仕事に

小さい頃から電子工作が好きで、IT業界に憧れていました。その思いから情報技術を学べる工業高校に進学し、在学中は当社を含む複数社が主催する子ども向けプログラミング教室のアシスタントも経験しました。今は憧れの業界で働くことができ、充実した毎日を過ごしています。



ビットスター株式会社  
【札幌市】

大室 秀太さん

札幌琴似工業高校  
情報技術科卒業



# 建設DX

北海道のしごと

完成イメージが描ける  
最新ソフトの活用



最新のソフトを活用して建物の平面図を作成することで、立体的な完成イメージとともに、必要な部材の数量や仕様、費用、工程に要する時間など、関連する情報を計算してくれます。情報を簡単に把握することで、残業が大幅に減っています。

## 建築現場のまとめ役となる「施工管理」

小さい頃から大工の仕事に興味があり、建築科に入学しました。インターンシップがきっかけとなり、建築現場における作業工程や資材の管理、事故を起こさない安全管理などを行う施工管理に興味をもちました。これまでに、学校の改修やお寺の増築などに携わってきました。



## 地図に残る建設業の魅力

大工や塗装などを専門とする職人さんと一緒に働くことができ、皆さん優しく接してくれます。施工管理の魅力は、多くの方々と一緒に建物を一からつくり上げ、完成したものが地図に残ることです。今後は、木造建築や鉄筋コンクリートなど、多くの工事に携わっていきたいです。



株式会社高橋組  
【函館市】

中村 愛海さん

函館工業高校  
建築科卒業



# 医療

北海道のしごと

市立稚内病院  
【稚内市】

西川 優風さん

稚内高校  
衛生看護科卒業



## 高校の学びをきっかけに助産師の道へ

看護師への憧れを抱き、稚内高校衛生看護科について調べたところ、最短で看護師の資格を取得できることを知り、受験を決めました。衛生看護科で学ぶ中で、地元の周産期医療に貢献したいといった気持ちが湧き、卒業後に資格を取得し、現在は助産師として勤務しています。



## 助産師としての やりがい

分娩介助や、出生後の処置など、覚えることが大変多いですが、高校時代の学びを生きかし、焦らず一つ一つ確実に業務に取り組んでいます。お産に関わった方からの感謝の言葉や、新たに家族が増えた幸せをサポートできていると感じられる点に、助産師としての魅力と大きなやりがいを感じています。

# 福祉

北海道のしごと

医療法人溪仁会  
西円山病院  
介護医療院  
【札幌市】

戸塚 楓佳さん

稚内高校  
福祉科卒業



## 利用者に寄り添う「気持ちの深い理解」

介護人材が不足している中、稚内高校は3年間で介護福祉士の資格が取得できると父から勧められ、入学を決めました。寮生活を過ごした3年間で、先生方、実習先の職員、利用者の方々など、幅広い年齢層の方と関わることで、「気持ちの深い理解」を自然に身に付けることができました。



## 介護業界の 魅力

介護の仕事は、重労働というイメージをもたれるかもしれませんが、使用機器は進化を続けており、腰などへの負担も軽減されています。また、資格取得への挑戦を支援してくれるなど、研修体制も充実しており、仕事で接する看護師などの方から学ぶ機会が多いことも魅力です。

# 食産業

北海道のしごと

パークハイアットニセコ  
HANAZONO  
(オリヴィオ)  
【倶知安町】

中本 勇翔さん

当別高校  
家政科卒業



## 調理を通じた人とのコミュニケーション

高校時代はグループで料理をすることが多かったため、専門学校に進学後も、段取りから調理中まで、常に仲間への気遣いを忘れずに作業する力が身に付き、それが今の仕事に役立っています。外国人スタッフもたくさんいる職場ですが、高校時代から培ってきたコミュニケーション力が生きています。



## 人としての“幅”が 広がる仕事

外国人スタッフとのコミュニケーションは簡単ではありませんが、徐々に言葉や考え方を理解できるようになり、“つくる”のと同時に料理の一連の流れを意識することで、その奥深さを知ることができました。休暇もしっかり取れるので、リフレッシュしながら仕事と向き合っています。

# 産学連携の学びを通して北海道の未来と地域を支える人材に



## このガイドブックを手にとった高校生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。皆さんが暮らす北海道の産業は、大きな変化の時代を迎えています。次世代半導体製造拠点の立地や、洋上風力発電などの再生可能エネルギー関連施設の建設、スマート農林水産業の進展など、日々新たな技術や産業が生まれています。

このガイドブックは、高校生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や、新たな働き方に対する理解を深めてもらうことを目的として制作しており、専門高校（職業学科を設置する高校）の卒業生が働く姿に加え、高校生が地域を支えている企業の方や他の学科の生徒と連携した学びの事例などを紹介しています。

このガイドブックを通じて、皆さんが自身のキャリアデザインを考え、本道の未来を支える存在となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

## ～高校における「縦」と「横」のつながりの好事例（富良野高校）～

富良野高校が取り組んでいる、地域の産業を支えている企業の方と高校が連携したキャリア教育、異なる学科の生徒と協働した探究学習の事例を紹介しますので、生徒の皆さんのキャリアを考える上での参考にしてください。

### 地元産業界と連携した体験的なキャリア教育 ～「縦」のつながり～

高校生の皆さんが、将来の「働く自分」をイメージする際には、地域の産業や多くの職業に目を向けて、広い視野で考えることが大切です。

富良野高校では、富良野市、富良野商工会議所と連携し、地元の企業や職業について理解を深めることを目的に、近隣の高校の生徒も参加対象に加えた「高校生向け企業体験会」を開催しています。

参加企業は、詳細な仕事内容の説明のほか、重機の操縦体験など、体験的な活動を取り入れて実施しており、参加した生徒の地元企業への理解の深化や、職業観の醸成につながっています。

皆さんの周りにも、それぞれの立場で、地域を支えている方々が数多くいますので、是非、多くの声を聞いてください。



重機の操縦体験の様子



仕事内容の説明の様子

### 社会の変化に対応した学科の垣根を越えた学び ～「横」のつながり～

工業科の生徒は、科目「課題研究」で、農業特別専攻科の学生と連携し、タマネギ栽培の研究に取り組みました。学んできたノウハウを生かし、水分量センサーを製作した上で、土壌水分量の値に応じて水が供給されるようにプログラミングを行いました。今後は、農業科でもこのセンサーを導入するなど、農業の発展的な学びにつなげる予定です。

また、「総合的な探究の時間」を中心に、普通科・農業科・工業科の各学科の特性を生かした学科混合の取組も推進しています。

皆さんが、これからの変化の激しい時代に対応していくためには、このような学科の垣根を越えた学びなど、探究的な学びを通して、多様な視点から物事を捉えたり、考えたりすることが大切です。是非、課題を見付け、仲間とともに解決することに積極的に挑戦してください。



製作した水分量センサー（左）と、タマネギ畑での調査の様子（右）



工業科の生徒が開発した自動水供給システムの模型